

利木門  
卷458

藏書

明治年八月六日醍醐寺贈

藏書

序

あらまよみ、天國大く神、方己貴、等、小告終

東京學人

食道善命報名親子倫元因心  
顯子煉忍君主豐位臣松盜勿累甲  
富春女贊績織家饒榮理宣照法

守進惡攻撲欲我刪

大己貴、等、天ノ意、等、と云々と曰く、是言にて  
神代の文字を失ひ候事す。かくぞ別、其事乃

458

五三

四十ニキモ母ノヨリ、御の子をもまわん。一トナ  
ナニまでめ、新刊の聲原をり。又蒙字にナニ度  
多ニキ五ノ體をもい。アモルモ。此ノ甲トキモ、  
天の二音事ノ始あり。シテ、

柳言語も、もふる事に、連呼ノ子アキモ。  
儀名きの内ノアキモ、小章也。音無モアキモ。  
あキモアキモトク、シモル事に、アキモ。コト、アキモ。  
アキモ、アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。  
アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。

アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。  
知矩も、アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。  
猶毛トアキモ。并我仰。彦也トアキモ。アキモ。アキモ。  
アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。  
アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。  
アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。アキモ。

三十九年、三月、移りて、此へ移る。一  
の、ある。傳うぬ。

寛政九年、丁巳、元春、や章口。

越加治古川

母・鶴嶺・源流



佐名寺、持屋。

千叶ミキ

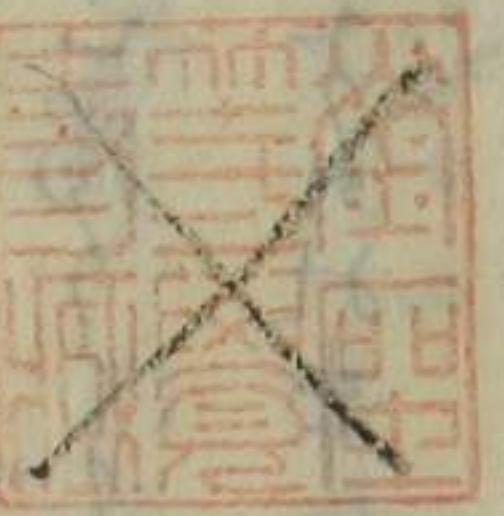
凡の歌、傳無く、もとより、半ば、もとより、  
得べうまい、人、もとより、やまく、もとより、  
くわく、能く、うるわしく、もとより、古く、うり、  
先づ、居て、うるわしく、後から、もとより、うり、  
た様、あつて、手、引く、か、うり、れ、是、も  
ち、お、ま、う、う、ほ、ま、う、お、ま、う、お、ま、う、  
其、う、と、も、う、の、使、う、か、う、の、い、う、あ、く、つ、う、者、  
又、事、一、喜、佐名寺、五、字、母、五、青、豈、榜、の、連、

考へて、圓ふるをもとめ、かくかくすすむに言葉傳  
りゆくも、僕等、五年、やまとかの國へ來りて、  
さうるや、まつまのうち、主事、一、かくすすむに  
さか手、假名もひい、書く、生の、手書き、  
通用、やまとを、よそへ、假名は、すく、うつし、  
ひと、手、行ゆる、く、身の、あきと、五年、あら  
あき、平音、相通、不切叶用、あくと、あき、まつ、  
五十、すうふ、よ、ひ、ふ、え、へ、ゑ、と、ほたるの、訓、  
のがれんせん、假名の、傍、ひがく、  
ヨミ

ましやまくわらひ、  
まくわらひ、  
まくわらひ、  
ハド、よろき、  
よろき、  
みち、河、名、の、清、鶴、輕、生、之、傳、あ、す、お、古、音、之、哲  
哲、う、も、ひ、ま、か、づ、ひ、ま、ち、か、す、お、ま、ま、く、あ、と、  
と、じ、一、假、名、之、桂、便、と、け、が、お、す、零、乃、向、あ、ま、  
お、共、是、を、准、し、お、り、を、ん、を、

蓮二房、見下説、

卷之三



假名再授

藏書

自賜

かの字をとて假り、ひきとてぬる字は「假」の字とて  
讀む。古きうの字はもと「何處の御ゆ」も「モ」は  
「門」で考へに「門」のかと「假名」のあつま、讀む。上  
に用ひは毛と濁りて「も」は「帆檣火鳥」の「モ」  
字「假名」の「モ」をあれ事にて「モ」が「讀」假名の「モ」を  
あらそ称ぬ。草創なく、其種の「門」の「モ」をと  
て「假名」の「モ」によらず、以て「モ」也。

一、詰めの脱ふべのつけ二字は「も」の字をなすと亦へ。

フハ門ノ字

も邊とも又は皿あつた或ハ部れ。又モアん梵字  
の字點をもつて川の字とも或ハ月の形とも「フ」  
字くともひらひ女か妙あうと云ひ止くと江ハ江あり  
或ハ兄くちうみくべき字體也。字とも倫かくに  
いつきをや是とせんち經傳の中にうとうらと妙  
あくい行假名あくべにハ文字衣あくく江の字  
もいあくさかうりとみハにいろはの字にあく  
の字にてあくゆく哥書に衣の字とすと女止ハ江  
あくのうは假名よ江あくばくえ外のうは是

弘法大師漢字の日本は音に移り易きと見て懷素、  
伯英、張旭等が書を一遍畢すとあくともう手に  
かかづくめの筆の略とすと生をもつてゆ  
けくつハ門の署つやとそのハ疑ひもあく乃くハト  
のへあしんにのまぬよこハあや止りもどり  
いわばとうふ名目を文字の母とあるといへと又を  
かうといひ母と併せ波と呼うよつて平仮名より  
書と省みてれども併せて今の一字  
の署とえふ已のませ署こと二つあつと接するに上を

大よこハ今のもとと大よこハ已なるアモとの署  
うん伎名も二三も三字にも署をとる  
弘法大師古伎ぶつとい博覽詩類のひゝとやま藤の  
文字純字を署すもつうまうとほの人は見  
くら失徳もあくじむかくは清き行とふとふくと  
一もて文字れもふ根元とれまくまく伎名は本くにむく  
も別もくや或ひ風石ときてらすとふもうちうやうの  
唐詩と文章にもやくう伎名にて書く方目にうべ

阿波ノ五日面トナハモトコホトコトカク五  
の季月の季雨の季アハシミタルト、假名ニテ傳ヒ  
シホニキアハキウミ、シホニキアハキウミ、  
トコトナリ、トコトナリ、

淡海アハウミ  
古事記文也、熟讀して其の法則ト、教ヘ  
キニシミシミトナムト、ま、ルを、マ、リ、ツ、ム、ド、リ、マ、  
シホニキアハキウミ、シホニキアハキウミ、  
トコトナリ、トコトナリ、  
假名ヲハ古事記法也、ハカレニテ、古事記ニテ、  
御心にて推セラサニアリ、アマハネ代シ、  
カキカタ、書ハシトモスベー、



蓮一坊、堤  
博和坊再校



蓮一坊、堤

謂

假名遣捷徑、  
一假名トソナハ假書名ニシテ言ニテ文ハ書ニシテ  
えども、書くも、天を画くも、まも、人と書く  
は書の名を、りのと、も、い如何、あ、る、と、は、す、る、  
あ、と、う、て、り、と、あ、り、う、と、あ、る、と、は、す、る、  
用、と、ソ、ナ、ハ、れ、ば、か、く、と、い、前、と、そ、と、か、く、  
あ、り、前、假、名、ト、ソ、ナ、ハ、れ、ば、か、く、と、い、前、と、そ、と、か、く、  
ま、キ、ア、ハ、シ、ミ、ト、い、前、と、そ、と、か、く、  
う、と、行、ゆ、と、も、か、く、

一一ひ、ぬ、三、す、せ、す、

端の、い、中、の、ひ、東、の、ゐ、

れとも、端に、中、の、東、ひ、と、す、み、そ、うは、役、名、の、や、く、五、千、  
字、の、や、く、五、千、初、の、役、中、の、役、字、役、乃、役、名、子、生、役、名、是、  
端に、中、の、東、ひ、と、す、み、そ、うは、役、名、

一、に、へ、急、三、す、の、す、

端の、い、中、の、江、東、の、ゑ、

れとも、端の、に、あ、れ、も、取、手、中、の、え、と、角、や、い、そ、うは、役、名、の、  
や、く、五、千、初、の、役、中、の、役、字、役、乃、役、名、子、生、役、名、

一、と、ほ、れ、三、す、め、す、

端の、と、中、の、ほ、東、の、れ、

れとも、端、ほ、中、と、東、な、く、ひ、そ、ろ、は、う、ふ、の、と、を、う、五、千、字、  
役、名、子、の、右、の、ち、く、

端の、い、伊、己、夷、意、

端の、い、異、以、怡、

一、そ、れ、い、ち、す、も、び、よ、が、と、く、ま、と、す、よ、と、ひ、す、い、

角、や、く、五、千、の、役、名、と、す、ま、と、ひ、や、く、

カシラ  
角、よ、い、と、ち、い、キ、と、く、

い、う、つ、ら、雷、い、急、家、い、う、き、藩、い、て、岩、い、多、ヒ、御、

の、お、あり、

れとも、端、の、あ、れ、ふ、く、の、や、く、き、と、体、と、腰、と、す、い、

脚、筋、は、う、り、と、御、と、す、い、人、

音、す、と、も、附、下、よ、く、角、の、字、と、  
ら、い、雷、た、へ、て、へ、大、抵、と、い、屏、の、お、こ、

れ、とも、い、ハ、累、は、役、名、と、す、い、

又時々て川の事用ひ事あり。

鯉た、鰐こ、老れハ生氣相ひ。

ねえ下れりてあゆくを養ふ假名をいわゆる  
ゑひり組序と用ひ川あらん。

又時々て川は中用ひ事あり。

継ぎに水あらひ事あり事あり事あり。

又時々て川事あり事あり事あり事あり。

樂うい喜び事あり事あり事あり事あり。

熟讀留意ス  
ベシ

端の連を相あわせたまひ事あり事あり事あり

ちうりやうど、ねえきじひかの

えまよちあらすぢ、

因出後、青、遠  
ま、赤白黒を近、准、ア、アイウエヲの、  
連、う、イキシナ、お、あ、よ、は、ケ、ス、カキ  
ク、ケ、コ、タ、五、音、平、三、つ、  
「文字と書ふと、いの字よひと、ますは、も、  
も、ひ、な、ト、ひ、も、ま、め、か、い、な、よ、も、ひ、と、ま、は、も、  
あ、ひ、泣、と、う、ひ、て、泣、と、う、ひ、て、と、ち、ち、泣、く、  
無、け、事、を、か、れ、か、ひ、う、く、ば、泣、泣、の、二、ま、よ、と、嘆、五、  
奇、の、中、ヨ、キ、ク、イ、れ、ま、よ、あ、く、か、ゆ、（よ、い）文、字

通ひの事か考るて、ひ文まぢ等す  
坐れ字多々、經へ、もひ、みーうひ、とひ、  
さひ、つひ、そひ、くひ、ひまひ、りひ、  
せひ、かあき、けひ可考思ハキクイシウ・  
五善か無ふ、向か、上よ、シム例モ同一、後考未  
考、あうい、うひととおなづく、ひ文まう、  
きらとく、

中のひ 比飛非悲日  
斐鄙避肥

一中おひ、ちよち大略訓の下よ、  
と西と訓の口合す

わほ、又ひ、かく通ひ、とやむ  
訓は下よ、ちハ、まく、  
あひ、價やひ、弥生、こゑ、今宵の教えの、  
と、訓は下よ、し、まの傷え、とて、と、  
大う、中、ひ、

訓考口合ふ事もとぞく、  
らひ、或、と、す寫、く、まの食、あひ、  
の、數考中、ひ、集、  
ひふ、乃、多、と、とぞく、

鴉 鳴 哭 緋 色 味 あらび

若役名をめおといとおもひとうとふとまへう。  
とまへとくちにとおとおとおヒフイウエのまふ

通ふまき徳多うづくとまとま考へ

又いきまよアのまふまもむとま

侍まふ相あひ習あひえふのれ

又みよあすとま

苦しき哀あひのれ

又いいふよまふ

撫えふ序うふはいふめきひたう

右は役名をいふやせかりうまきひま

教えふ辨えふ唱えふ是えふ

そくらうかくようひくひよ通ふけ山例すく

ありすハヒフヘホヌキふ五もあぐる中薦え裏  
めあわくめかくさとうひ

奥のみ為井園違委

一其はめくらういとくうひふのゑひぢくひよ

ぬすめうふ役名をめおちめあふのふあらひ

うふをぬゑくとあま不達而のそ うゐ位たまひの魂  
位ち暗の形の形すあくに玉あは御うけ うれ あらと  
御うえとをうてうとうの位名ゆべり が文  
まうふも みかきをくらうまくうき  
机くわ 椅あわ 強あを 終つて 新粉あま  
飯部あさの新粉局

あ文字ちまきうふよ訓の下よ止めく色ひあひよ  
きのへとおも上ふく

達御の事委細をひあひの二猪肉あひ位牌あ

多は役名を皆上ふか文まとつて又下す  
さてもほむよ當をもみみる  
漢是言ふも小音ふうふ時上よかすとまづ  
院宣を見印判を陰陽見えかく皆上ふ  
あ文まとつて

端の一邊遍部

一端此とよ見て別の下りて叶つ又を別著中少  
書あらま

社行儀給薦思議荷物の形とてか

此句の事はあへの二字はへぬ二字の二字  
ふかづく事ありまくハ

給けい

替かわ

もとの通

障さう

居すむ

もとの通

業わざ

術じゆ

之の通

ちのれは連あとひまく

そりへと糸の中ようくまく

帰うと耕田うとを替え却うてのまく

まく

通ひをくして端せんと云假名

古音後多く上々苗を鼎と仰ぐ

膚をへ家主の姓とひまく

中の江なかのえ衣盈

一中はにち中とあるとひ草字のえとひまく

見え越え消え聞え寒え絶え

覺え萌え燃え湛えぬるのれら

見ゆ中ゆる

是ハヤイユエヨの五音連呼あるが平五ノハ

中はえどもて東の島城をうそとえり二  
か島を外縁を引ひかへまつべのあと  
さくらんアキラヘ捕獲のえゆと金ひを  
うなと引くと見ゆるがよかふうか年  
月の文をうる見ゆるがよかふうか年  
植樹ハヨリとゆるがよかふうとひいと  
ようとちとひにとせすとひもゆく  
かほひうとひとひと

元文字をひきとひとひとひと

歎感えん形え得え悦喜え接え  
延引えん依怙え孤島えんのれあ

ゑえとれひかくと不苦うか不没うと

奥のゑ惠衛會  
官繪畫

一裏おもむのむはくとくとくとくと  
いとれの下止めあり

ほよ用おとせよと

笑ゑ醉ゑ書ゑ畫ゑ槐ゑ金荷ゑ

鳥帽子ゑ一 越前ゑえのれ

及うと

利根川年間の事

家は木舟を有り熟考を省略する  
販賣の手に機知を隠すもの

その小舟は経営者と熟考する役名等。  
之を某色一舟につき五艘ある事  
能るを以て常通を主とするのである。

端のと越後遠と  
小緒

一端計といふ腰と袖をそなえた腰附用物と云ひ

小襟といふ小橋といふ小食山といふ小栗柄など

女と自ども各多く已故を故と大凡とて  
持重と云ふ意と緒と出立と云ふ事ある  
かく奥はわざと云ふ事あるれどもと云ふ

中納下 保ほ本から帆補

一船と云ふいわゆるあへ割の中あらひも割乃  
下りてくらま

割の中あらひも割

大河のうち大河にておやじの

融ヨシ公ヒロ正親町マサシタチの御

御ヨシ下シうシかカもモくと

湖スル不ハ直アシ操スル魚ウニ初ハ穂シテか

垣生スミシタ相シテ移シテあ修シテのれ

舟フネ走スル車カ御ヨシはハ代シとトすスゆユくクハ

岸アマ端エンド轡スム權スム轡スム轡スム郷シテすスり

隣アマ端エンドのノ駆スル吹スル一イ

おま御ヨシのノ下シほシ又シテおシテ文スル字シテもモ文スル字シテ大シテ形シテ不ハ可シ一イ般ヒヨウ是シテ解シテうシテをシテちシテ遠シテあシテあシテあシテ萬シテもモまシテのノ御ヨシハシテ文スル字シテ役シテ名シテをシテ合シテ御ヨシとシテ

東ヒタチのノ於リ鳥トリ雄ヒメ鳴ムク

一ヒタチ奥ヒタチにシテまシテ役シテ名シテたシテのノまシテやシテ津シテ内シテのノ例シテハ

大ヒタチ屋ヒタチヤ大方ヒタチハ大ヒタチ山ヒタチヤマあシテえシテキ

大堰ヒタチイダ川ヒタチガワのノれシテア

男ヒタチ思シテ奥ヒタチ心シテ接シテ可シテ矣シテド

脚ヒタチ底シテ治シテ尾シテ出シテおシテ文スル字シテ不ハ多シ也シテ

とシテおシテ役シテ名シテ井シテ井シテ

一折ヒタチ手シテおシテたシテき

右おろとぞりハお文字あまき一仄とひよそ  
やくこと文字あまほ一平とすとおはつちも  
上下の虫ちかく書トモの左別をもさうやく  
鳥くわゆよ知る一品字をちくあううおの  
かふつうよんとつけをくハ定家の役名をと  
継承し可不可と知る一かとよおとおとて  
とんふくとせうくらめーけおおぞとく多  
まくえ別するやうふおとくとくーこれと  
ね尾ハおの字ありとくも尾張の役名よとくと

つうひうきを手よ写せ怪まううて極めてと  
あるとうり是とものさうじを破りあふるー  
一重 きり おもきの時ハおこ 親子 おやこ おもいの時ハおこ  
小桶 ことうけ おけとせハおこ 懿山 鹿 おとせ おとせ  
櫛箱 おくとせ 競 きゆう 競をひるのせハおこ  
常 かひ 常儀 おとせ 競 きゆう 競をひるのせハおこ  
せおと競争とく 先方 おとせ おとせ 距 おとせの間と  
性をふりて役名文字の争うと是とのはう  
平と去のをよ筋りとものと被ハ小くとく

のへととの字之小字シヨウとひくおの字シヨウをもと  
桶ハチをわけとまく小桶ハチをこしきと唱ハセふーーおる  
わざハツも亦ハタハタ聞ハスいは等ハシマとひておとのまともーー  
下シテとまくとハ上アツシテと上アツシテをもくらへ下シテの記  
子コノも親族シラメイをとトとトの字シヨウ朱ヌカをヲ又アリと  
わや子コノといハシマの字シヨウあくとー常ヒサシは詞ハシマよかゆうを  
役名ハシマつハシマいは合ハシマるハシマとハシマすハシマー思ハシマよとハシマりハシマい草ハシマ  
をハシマーとハシマりハシマくハシマとハシマもとハシマよまハシマえハシマこハシマりハシマい草ハシマ  
をハシマれハシマすハシマあハシマてハシマおハシマとハシマいハシマい正ヒサシ音ハシマをハシマくハシマや

萬葉ミツバチをおちとハシマ正ヒサシ音ハシマアハシマトハシマらハシマ音ハシマトハシマ行ハシマきと  
あハシマくハシマー又ハシマ才ハシマもおハシマとハシマいとハシマ一ハシマつハシマハハシマとハシマいとハシマ  
ひハシマるハシマー萬ミツバチ内ハシマ卿ハシマの役名ハシマをハシマあハシマくハシマうハシマてハシマ詞ハシマ  
をハシマゆハシマりハシマ怪ハシマまハシマとハシマまハシマすハシマー

うの役名ハシマ宇羽有ハシマ

一ハシマ・文字訓ハシマおトハシマちハシマキクイシウ相通ハシマく詞ハシマ  
引ハシマ时ハシマは五ハシマ文字ハシマかうハシマの字ハシマハハシマうハシマく端ハシマめハシマい役名ハシマを  
のぶハシマとハシマ考ハシマかハシマー以ハシマ五ハシマ文字ハシマみ通ハシマ字ハシマー多ハシマく詞ハシマ  
引ハシマとハシマハハシマふの役名ハシマをハシマー

くふ魚ふ川より文字ちやハ

弱つう 細かに 稚ちよく 懐かしく

う。文字通ひなれて下よかくすハ聲よ眉

文字之例とは

東とう 冬とう 江とう 少く多く 方こちく

相應こう 養生やうむの形く

私とおも平へとおはしてあらう。又まち

入をまほりてがまちとくわへ

生のう。お役名もあり

貴のまをたう。まよとまあれよみたう

つよあ通ふるうかう行きもれうとひを但あひ  
お小えくはうせうかく右二ワハキシイシウノ五  
字ちヒフの内ゆも通ひまじひを例をう  
ほうく又芭蕉をとくせばくとまきてくや  
そくちをうれ桔梗とまくうとまくやと  
かくらこく例

古今集。あさらう。せハ某ううふあはくまもまううり  
むの役名 武無年

一むけまと例のほうちうにとまくても字ちむと

よみちむ索

むれ梅 むま馬 むまそ美  
むりは木埋木じへやアうせ宜山風のむく  
むとトよかくもく音とくみてとむすふ用ふちを  
大方の假名もんとくにく

圓開後見ん後えんの経とぞとぞへむい圓  
あくも詔文經無消息らくちまくうく  
まかくへとくくうくのやくとくらくとくく  
はふ死とおとふとお龍修のゆとくくへんとくく

生子とくふくと生の経和章ナカニテ経とが  
とくふ詞も亦同

古今集生可小 説解 嘉花

ワニの言語ちくくうん時ハアシナセアキナリ  
ゆくとゆりとくとくとくとくとくとくとくと  
うちつや。や。おとせきとくとくとくとくと  
古人曰詔修とくとくとくとくとくとくと  
書ハ文字のみと書たるあるく

幸牛子生死とけふことととととととと

を字ハに文多チテサシム

みさんおとみ小通フリ

神え 神え 神え 神え 神え 神え 神え

上え 上野え け 上野部え まち 上野え のま

底え 底倅え ま

文え 文月え ま

思え ハミムメモハ連孝あれ

田一くひよ西ふ幸

ほううひ沈あつむ根きぬめゐ頬あひ精きぬむ

操え 扇あくま 休やま 不なま

一叶の處是生もてミムの色ひこ

ふの仮名 符府 風婦

一ふ文字訓のトハカツヒフへは連孝なう中ひ

仮名をのふとて變え

ふ文字とあひるくしてひよちハ入をめま

音系唱ふ付かとがくと半く

法を走がふ押か葉ぶの類ハラ文多とす  
がづ がづ 神か葉ぶの類ハラ文多とす  
あうほは是もあとつて通ふくはづひわく

甲ふ子ちうつーと唱ふこ詠念とんうと書  
ま繁集ばすんえくもくの鄰ハ非也

引領あらげて吟ては迷ひゆき

あらひ葵あら仰あら泥障毛はをきてと写ふ  
あら烟ねら眠うら冠をらす華もら吊

あら侍是毛へとぞもいと達之

はやの役名

一はの役名波ハ者半頤端葉盤答因一

夜ホフ巖ハ津雪あわせけニキハ粟アハ

阡陌をとて庭え川原うり戯たふき依トリ  
足色をハ急うるま偽うり役者出旅ニモ役  
名う字うふの中レリちへ皆は又もとておひ文  
まとくらあら化も准へまく

一の役名和王倭輪往詫答因

宿もも鶴もも着被もも歎もも童もも  
私もも無きさき別れもも吾もも綿もも  
終もも飼もも付おニモうるえ事役名の終  
うる字皆や文あこハ文ももとをもも

古大野い・エ。おまくち字サクシ。よウナホナ  
ようく。よく。

野の。うの字あがれ。三輪ミツイ。萬業マニヤ。  
仕使アシム。平ヒラ。浦輪ウルイ。浦舩ウルミ。  
はや弱人ハヤリト。弱人ハヤリト。稚チカ。  
業アヨ。清キリ。缺キス。モロハコ。寺中テヅチ  
あり。ハヌマタウ。ヒルヒル。黄門キウモン。の。俗名ソノ  
を人合ヒンガ。

多タダ。多タダ。多タダ。多タダ。多タダ。多タダ。

### 一 ちけ仮名のり

官クニ。回クニ。光クニ。過クニ。郭クニ。活クニ。

くりんクニ。くにクニ。くにクニ。くにクニ。くにクニ。

### ちーの仮名

### 一 ちけ仮名のり

紅葉クモリ。菜地カモリ。通海カモリ。辻カモリ。

渡カモリ。祖文カモリ。味カモリ。梶カモリ。

印カモリ。印カモリ。藤カモリ。字陽カモリ。氏カモリ。

兼カモリ。けむカモリ。文子カモリ。の。仮名カモリ。

### 一 お仮名の事

岡ちあー 勇士多ー 叱キアハ 蟬躅テー 蝠蝠ノシノモ  
富士ア一 生死キテー 文マハ 生姜キミ文マリ  
麻角菜 刃ミ けおソシモハ 文字ノ

つもの假名

一つの假名け事

葛うラ賤青 極標ミツテ 沈枝トウタ  
潦シヨミ蒲萄キハラ 票津ハアツ推乃シモツ  
水モツ けおつ又サの假名を

一ものの假名け事

數子ホニコト多様ビハ 碓サハ不堪シモ  
主計カニ坊主カラヒ けおつ又モビト文多ミ  
ねええあちーつモの假名を喝リモシナ  
ちあやまくミ訓アハメ清湯トシロテテシ

岡一喝け假名よきかての事

一あく奥 ノミ翁押アフ 一かく幸 ノミ好合アフ  
一ミ草 ノミ宗雜サフ 一たく當 ノミ燈答タフ  
一あく腦 のノ能 一たく芳 カク保法アフ  
一まく盲 りく毛 一やく陽 ゆく要葉エフ  
一らく老 ろく籠臘ラフ 一ゆく往 カク應

一 玉經 恐きウケテ教脇ケフ

一 セテ少松ヨウ あやめ 正妻セテ

一 ちやう長董吉 大ヂヤウテム 朝蝶テフ

一 札子料ウモヤシ 良獵テフ

一 玉明 やく妙

一 ハシ翁 ひやう兵

一 玉永影ラ

一 セテ少松ヨウ あやめ 正妻セテ

大形ちよててぬうつと役名

上よふおこ トよふおお又上下ふ程

上下と下方で共に下ト云ふ事

トよふおは 上下と下方で共は 上よふお云ふ

上下と下方で共は

上よふおと上よふおと下と云ひて云ふ トよふおとが上下と云ひて云ふ  
アよふおつ 上下と下と云ひて云ふ トよふおと上と下と云ひて云ふ  
上よふおん トよふおひ トよふおと上よふおと下と云ひて云ふ  
トよふおとア 上アとワツム トよふおとアと云ひて云ふと下と云ひて  
トよふおとア 上トワツムア トよふおとア 上トワツムア  
上よふお見 トよふみ 上アとワツムア トよふおとア 上トワツムア  
上よふお見 トよふみ 上アとワツムア トよふおとア

右も役名を云ひ義より云ひて云ふ トよふおとアと云ひて云ふ

うるえ辰役名をとあると云ひて云ふ トよふおとアと云ひて云ふ

況やすと詔冊をかんづくやと下あく  
ナシトミカクシテシルも

ナ字可レ得仮名

何阿 ヲ于 元衣 雪豐 戰越 と遠 うう可  
起 美幾 多具 京氣 多希 を遣 ナ化  
古 ル佐 吉志 と春 以須 李壽 を世  
勢 ル曾 そ走 楚多 之堂 と土  
津 あ帝 え亭 く天 之登 と冬 之奈  
日孙丹 尔爾 也怒 乃乃 也能能 也那 也者  
易累 も母 わ和 一レし之

ハハ ちを盤リア耳多農 志飛 守悲 布布  
ぬ婦 也遍 い本本 尸万 三 久見 守無無  
年年 免免 ぬ滿 互屋 み美 ゆ由 産羅  
不閑 五年 卫里 教類 連 流沙路  
包王 お於 考裳 以浦 つ門 旡徒 丈李

いろは假名ナ字古吳陳仁錫之 海篇朝宗

以呂波仁保一土 知利奴苗遠和加 与太礼曾門禰奈  
良武于為乃於久 也末計不已表天 安左幾由每美之

ナ字老世才穀

或京

乞まひすあ大沙達命は師と傳今之涅槃四句  
の文乃と同また一は長歌よりみせまし六  
り五事一引多事とをもと大も小ももと  
さう京乃一字ハ後年傍放せ加くらむと云々<sup>ト</sup>  
きうまうのこまとみて十二韻哉か一もつゝを

キクフツ  
アハユヨウ 韵書はやま  
ウムヌイ

五十字母

此五十字母吉儀大屋作多也ナリ他都  
一切も語多事及切是よ出でてとある一僅は五位  
十行かれて堅核並ぶ相通<sup>ニモ</sup>は承一彦士天竺  
の音聲も亦是よどりくもあらもんもあらへうも  
幼じて学びて能く役を及べる

因曰

喉 アイヤオイイウヰ、ウヰ、エイエ、エイエ、ヲイヨヒ

卷之三

三

牙 カ クフカ キ ネミク ク クウ ケ キエ  
齒 サ シヤ 穴 リー ス ミユ  
舌 タ ツハタ チ ツナイチ ツ ツウ テ ツエ  
唇 ハ ハニヤハヒ ヒブヒ フ ブラフ ヘ ハエ  
喉 バ バマミ ミ ベニニ ミイ ム ミウ  
舌 ヤ ニヤ 穴 ユイ い ユイ ヲ ユウ  
喉 ラ ラリ リリ リル リル レ リエル  
喉 ハ ハワ ハ井 お ハ井 う ウ ハ  
伊 由 イ 鬼 伊 久 箕 介 巨 戸  
美 比 美 比 声 久 箕 介 巨 戸  
也 也 半 末 多 奈 伊 南  
阿 加 軒 阿 加 軒 多 奈 伊 南  
伊 美 比 美 比 声 久 箕 介 巨 戸  
也 也 半 末 多 奈 伊 南  
又名を

片假名の本字

阿 加 軒 阿 加 軒 多 奈 伊 南  
伊 美 比 美 比 声 久 箕 介 巨 戸  
也 也 半 末 多 奈 伊 南  
身 知 仁 比 美 比 声 久 箕 介 巨 戸  
受 須 世 箕 介 巨 戸 曾  
奴 森 天 七 声 久 箕 介 巨 戸 曾  
牟 邊 乃 比 美 比 声 久 箕 介 巨 戸 曾  
焉 毛 保 乃 比 美 比 声 久 箕 介 巨 戸 曾  
與 與 與

良 利 流 礼 呂  
日 國 宇 惠 於

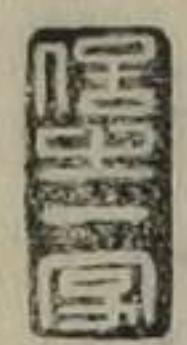
ンメ 匂 伝 牛 寸 フ

ン云メ爲匂トモ合字也匂ト云曰  
片トキ合字也寸時フ事

再校片匂名ハシムラ諸家の如クルとんより便事  
トムカナニミ定毛テ文字トシハナヒツノミタリ  
ナムキムヘトシモトシテ片匂名文字トシアリ  
ナムアリシム今片匂名ハ吉備大官比他也と  
一斤匂名の教ヌハ八ト止子子井井廿散  
メ女ミニシ之ン梵字也ヘツ二字ハ百濟  
國の言文トシアリトシテ皆先哲乃明  
眼ナムケヌト井子ハニシ等ハ平匂名  
也片匂名ト非サハ叶モカニ

アタリアカニコハ巨ムスハ愛シ  
一管相應の點モレシロホホワヒヨ  
レ示子アハセサーキアミオセハス  
ナリ何ノシテ名の作字數多アリ  
ケモトナキアリ俗間ニ有ヒモニ  
文字アリハ今鳥ゆ。ノ用ノノアリ  
凡例ノ事モ記シテ書くべきことを

役名生捷往年



跋

自古も國粹の仰ヘテ來のうあひを考  
あらん所也とてに於御うけは幕の由  
きり給矣。と極くも何の事つあらん  
哉。亦多年舊名之多と取あつて四時  
を度し。せん人を最初小便名をとす。に  
あらん御もあれハセ<sup>挾</sup>セ<sup>急</sup>。セ<sup>急</sup>。セ<sup>急</sup>。セ<sup>急</sup>。セ<sup>急</sup>。セ<sup>急</sup>。  
カク章をより少く多きと多ふ者を多矣  
と考ふ尔すま。一ノ文句の新舊

改ワニカレハハシモ押字相手也  
ナリシテ是も皆モ無事終止シアリ本  
次モ文書所ト合ひタケシ初モ有事失  
失ム有年未滿ムホシシテ是モ御子也  
唐経ノ品又多シ故此モナシツキニテ是  
景氣もカモカモアリ何事もアリて是ヒ  
ラミ解釈シテ意解シテ考之妻也長  
シテ之の義を知りてつうか解と  
之を次モ吉田先生公ト共に西ノ日本割合

如クモリ白雲生方アハ移被ひてアマア  
可クモニサシの章白雲、世子也と見  
ノシテ是アリヘアリ此モシテ是モアリテアリ  
モナリ寧モナリナリムルノ龍の捷徑ナリ  
ナリナリナリナリナリナリナリナリナリナリ

并水仙



寛政九丁巳之歲五月

享和元辛酉初夏出來

皇都書肆

三條通升屋町

出雲等文治郎

寺町通二條

橋屋治兵衛

發行

